

若い日本ファン層の「推し活」はインバウンド観光に繋がる!?

兵庫県香港経済交流事務所 所長補佐 ジジ・チャン

日本のポップカルチャーに惹かれる海外の若者

ACG (アニメ、コミック、ゲーム)、アイドル、コスプレ等のポップカルチャーは、海外の若者が日本への憧れを抱くきっかけとなることが多く、香港でも浸透しています。私も中学時代にメディアミックスの2次元コンテンツに出会い、その声優さんによるコンテンツライブでの感動がきっかけとなって、一オタクになりました。

海外のオタクがなぜライブのために日本に?

大学生になってから現在に至るまで、何度も日本に出かけては多数のライブへ参加しました。毎回、オタクではない友人や親戚から「なぜライブのためだけに日本へ行くの?」と聞かれます。人によって答えはそれぞれかもしれませんが、私はいつも「推しがいる 2.5 次元ライブの魅力」×「ついでに旅行」と答えています。

2.5 次元ライブの魅力

アニメ、コミック、ゲーム等コンテンツの原作自体は平面なので「2次元」と呼ばれるのに対し、声優さんがそのコンテンツの歌やダンスをリアルに披露するライブは平面と現実の間という意味で「2.5 次元ライブ」と呼ばれています。現実には存在していないものを表現するのはなかなか大変なので、運営側や声優さんがそれぞれ工夫しています。運営側はライブ構成にコンテンツのストーリー要素を入れたり、声優さんは外見をなるべく役に寄せたりしています。

観客側にとっては、受け手としてライブを楽しむことも大事ですが、応援したい、好きです、という気持ちをその場で伝えることも大事です。ライブ中のペンライトや声援はもちろん、事前準備が必要なフラワースタンドやプレゼント、手紙を送るファンも少なくありません。



筆者が企画してイラストを描いた
フラワースタンド (出所: 筆者)

コンテンツの原作では、例えばゲームのプレイヤーとして物語中の役が付与されることもありますが、自分の身体で感じるリアルな体験ではないため、あくまでもバーチャルな傍観者にすぎません。ですが日本でのライブの空間では、自分の肉眼や身体全体を以てライブ構成で再現された原作の世界観を感じ、推しキャラもステージ上に実在しているように見えます。自分からも応援をしっかりと運営側と推し声優さんの耳に直接届けることで、忘れられない

「思い出」となるのです。実際に私も、心と身体全体で 2.5 次元ライブの楽しさを感じているからこそ、この趣味をやめられないでいます。

ライブ × 旅行

ライブのために日本へ行くとはいえ、折角日本の各地を訪れるので、ライブの前後に時間があればそのコンテンツに関係する場所を観光します。さらに余裕がある時は、滞在期間を少し延ばして、隣県の観光地を旅行することもあります。

ライブのため開催地に宿泊するので、空いている時間は聖地巡礼したり、観光地やレストランで推しキャラのぬいぐるみと写真を撮って、SNS で発信することもあります。日本では、推しがきっかけになっているファン主体の観光活動のことを「コンテンツ・ツーリズム」や「ファン・ツーリズム」と呼ぶようになっていて、最近知りました。ファンが自分なりに「推し活」と旅行を楽しむことで、ライブの開催地に経済的な効果をもたらすこともできているのではないかなと思います。

観光庁の「2023 年度訪日外国人消費動向調査」で香港からのデータを見ると、訪日目的が「イベント」の平均宿泊日数は 4.4 泊で「観光・レジャー」の 6.5 泊より短期間ですが、旅行消費単価は 244,849 円と同 182,569 円を大きく上回っています。



推しキャラのぬいぐるみと観光中
(出所: 筆者)

さらに、観光産業も地域観光局等とともに公式コンテンツと連携して、国内外向けの宿泊観光パッケージや地域ツアーを打ち出す事例も見られます。ファンの「推し活」に寄り添って、コンテンツ、ファン、観光産業、地域にとってお互いに Win-Win となる連携が現れつつあるようです。

リアルな交流へと繋げる

当事務所で勤務するまで、「推し活」は大したことはないという認識でした。当事務所で観光交流に携わり、視野を広げて実際の状況を観察するようになったことで、「推し活」から生まれたツーリズムについても、相互理解や経済面への波及を感じるようになりました。

一オタク、一海外事務所現地職員として、今後もより多くの海外の若者が、リアルな交流を求めて実際に日本・兵庫を訪れるよう取り組んでまいります。また、県内企業や県民の皆様が海外へ活動を広げる先として、親日な香港の魅力を感じていただけるよう努力したいと思います。

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界 3 か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】